

## こどもホタレンジャー活動平成28年度受賞団体概要

### 【環境大臣賞】

ほそごえほたる さと かい  
細越ホタルの里の会

いずみかわしょうしぜんたいけん たい  
「泉川小自然体験し隊」森や田んぼがあるからホタルがいる”

(青森県青森市、13名 青森市立泉川小学校 小学4年生)

#### 【審査委員講評】

ゲンジボタルの北限である青森県において、生息地が少なくなったホタルの生息環境を保全する活動が高く評価された。また、チョウ類の調査を通じてホタルが生息する環境の変化を捉えていることや田植え、稲刈りなどの農作業との関わりについても学ぶ活動が評価された。

#### 【主な活動】

- 春にゲンジボタルの幼虫・カワナナの放流と田植え活動
- 夏にチョウ類の調査2回とホタルの観察
- 秋に稲刈りとゲンジボタルの幼虫放流や花の植栽

過去の調査と今年度のチョウ類調査を通じて「細越ホタルの里」の自然環境の変化を調べ、ホタルの生息環境が守られているかを地域や子供たちと一緒に考える活動を行っている。

## 【 水環境保全賞 】

こうえきざいだんほうじんさっぽろしこうえんりょくかきょうかい  
公益財団法人札幌市公園緑化協会

にしおかやんまだん  
「西岡ヤンマ団」

(北海道札幌市、25名 小学1年生～小学6年生 中学1年生 高校1年生)

### 【委員講評】

トンボの生息環境である西岡公園にある湿原の乾燥化が深刻な問題となっており、その状況をトンボの調査を通じて把握し、結果を子供たちが一般市民に向けて発表を行っている点が評価された。また、小学校を卒業した団員が、中高生スタッフとして活動をサポートしている点も学びの発展として、評価された。

### 【主な活動】

○月1回のペースで団員全員がトンボの分布調査と標本製作を行うほか、すべての団員個人が設定した年間研究テーマに沿ってトンボと環境の関係、トンボの生態・発生状況、形態変異などを詳しく調査し、成果を一般市民に向けて様々な場所で発表等を行っている。

○小学校を卒業した団員は、中高生スタッフとして活動をサポートしている。

西岡公園の多様なトンボ相は、湿原・川・池など公園内の多様な水辺の環境によって構成されているが、放置によって陸地化が進みやすく、微妙なバランスの上に維持されている水辺環境の健全な保全により、トンボの多様性を維持する活動を行っている。

## 【 水環境保全賞 】

しものせきしりつすまくらしょうがっこう ほたれんじゃー  
下 関 市 立 角 倉 小 学 校 こどもホタレンジャー

すまくらしょうこうくしぜんいさん にんてい  
「角倉小校区自然遺産に認定！～ふるさとの自然を守るために今できる  
こと」

(山口県下関市、55名 小学4年生)

### 【委員講評】

学校周辺に川や田畑などがほとんどない島内環境にも関わらず、校内にビオトープを整備しヘイケボタルが生息できる環境を創出するための整備活動や水質を浄化するために費用をかけず浮島を浮かべるなどの活動が評価された。また、子供たちが残された自然を調べ、今後に残すためにどうしていくかを考える取り組みが、ESDの視点として評価された。

### 【主な活動】

- ビオトープの環境を守るための整備活動や水質を浄化する活動
- ビオトープに放流するホタルの飼育
- 校区内にある残された自然環境を調べ、「校区自然遺産」として認定し、その自然を守るために何ができるのか、地域にどう伝えるのか、などについて話合うなどの取り組みを行っている。

戦後間もない時まで生息していたヘイケボタルをよみがえらそうと角倉小学校内にあるビオトープに、ヘイケボタルをはじめとする水辺の生き物がすみやすいような環境を創り出す活動を行っている。

## 【 審査員特別賞 】

ぎふけんやまがたしりつたかともちゅうがっこうせいぶつぶ  
岐阜県山県市立高富中学校生物部（ふくぼっち班）

「守れ！ ふるさとのヒダサンショウウオ」

ぎふけんやまがたし  
（岐阜県山県市、5名 中学2年生～中学3年生）

### 【委員講評】

ヒダサンショウウオを対象とした調査研究や部員がヤマビルと戦いながら活動するなど、自然の厳しさを体感しながら、生き物のおもしろさを追求している点が高く評価された。

### 【主な活動】

○ヒダサンショウウオの産卵、卵から孵化、幼生について調査研究を行っている。  
○研究成果を様々な場で紹介しながら、自然保護の大切さを伝える活動を行っている。

今年度は校区内に生息する準絶滅危惧種であるヒダサンショウウオの卵からの成長時期が場所によって異なる理由について調査研究を行い、「遺伝、水質、水温」の3点から研究を進め、成長速度には水温が関係していること、水質や遺伝には関係ないことが分かった。また、様々な場所で研究成果を発表し、地域に関心を高める取り組みを行っている。

## 【 審査員特別賞 】

かにしりついまわたりみなみしょうがっこう  
可児市立今渡南小学校

ほたる たまご ふか しゅうかつどう  
「ホタルの卵から孵化までの飼育活動」

ぎふけんかにし  
(岐阜県可児市、495名 小学1年生～小学6年生)

### 【委員講評】

児童、職員、保護者、地域の住民、市が連携、協力して活動を行っていることや、地域を流れる可児川の水質および水生生物の調査を行っているなど、ホタルの飼育を通じて、地域の水環境を学ぶ活動が評価された。また活動が24年続いている継続性についても評価された。

### 【主な活動】

○校庭のビオトープにある「いまみ川」と「ホタル川」にホタルをたくさん飛ばそうと、産卵、瞬化、幼虫の世話など成虫になるまでの一連の飼育活動を行っている。

○6年生は、市内を流れる可児川の水質調査、水生生物調査およびゴミ拾いを行っている。また夏休みは80名を超える生徒がお互いに日程を調整し、ホタル当番として幼虫の管理を行った。

6年生と児童会ホタル委員会、PTA事業部が中心になり、ホタルの幼虫を育て、ビオトープに放流し、成虫になったホタルを採取し、産卵・瞬化させる活動を行い、児童に「思いやりの心」、「命を大切に作る心」、「自主・自立の態度」が育っている。